

かもた

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

鴨田遺跡は、姉川左岸に広がる長浜平野の中央部に位置しており、



(長 浜)

ける中世の遺跡は、現在の集落と重複すると考えられてきた。その理由は、当地が姉川の氾濫原にあるためで、過去の発掘調査やボーリング調査でも多数の旧河道などが確認されている。このような背景がありながら、今回、比較的広範囲で

中世の集落跡が発見されたのは非常に珍しく、今後長浜平野における中世の景観復原の重要な資料となるであろう。

今回確認された集落跡は、周辺に現存する集落の跡地と考えられる。つまり集落の移動した痕跡と考えられるのである。これについては『近江国坂田郡志』に「古へは高鍋と稱せしを、天正年間巽の方位にある地に移住し、辰巳と改め、後、更に大辰巳と改む。」とあるのが参照される。現在、大辰巳町の集落は鴨田遺跡の東方に位置している。一方、鴨田遺跡の西方付近を、つい最近まで周辺の人々は「たかなべ（高鍋）」と呼んでいた。現在の大辰巳町の西南、つまり巽の方位の逆に位置するのが当調査地であり、「高鍋」なのである。そしてその「高鍋」の伝承地から、室町期の集落跡が検出されたことによって、集落が移動したことが実証されたことにな

遺構として注目されるのは地割の境界を示す区画溝で、この溝の位置は圃場整備前の水田の旧畦畔とほぼ合致する。区画内の遺構もそれぞれ切り合いや密度も違い、当時の集落内の様相を色濃く残している。

遺物の出土は少ないが、青磁・土師皿・摺鉢などがある。中でも土師皿は溝と柱穴内からはほとんど完形で出土しており、当時の地鎮祭などの様子を垣間見ることができる。

今回出土した木簡は、「西国三十三所観音巡礼」に用いられた巡

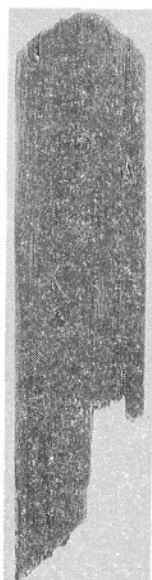
200×46×3 011



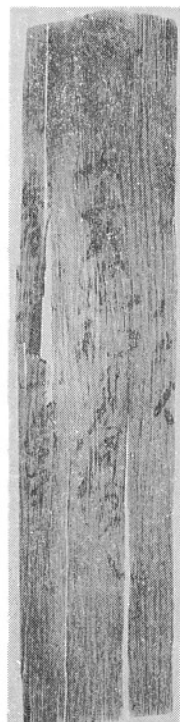
(6)



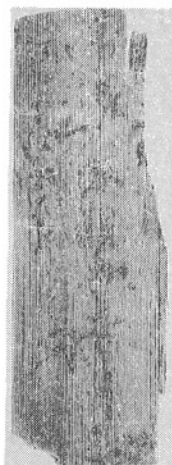
(3)



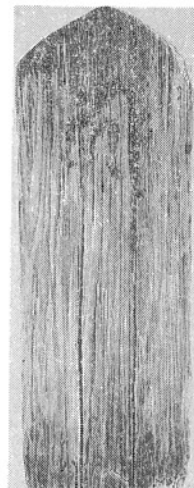
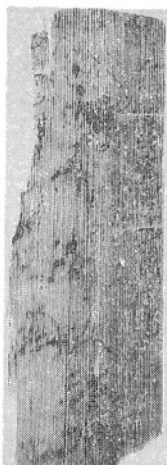
(2)



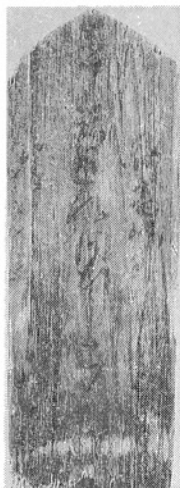
(1) 表



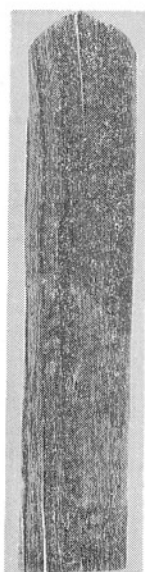
(5)



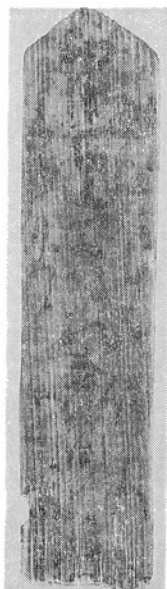
(4)



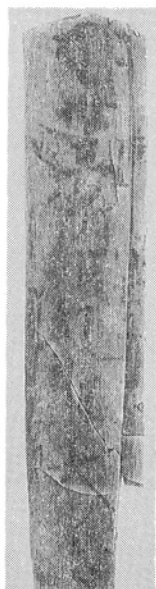
1993年出土の木簡



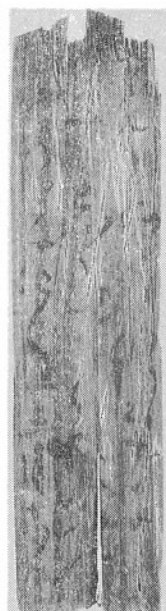
(9)



(16)



(17)



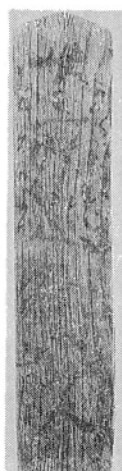
(19)



(14)



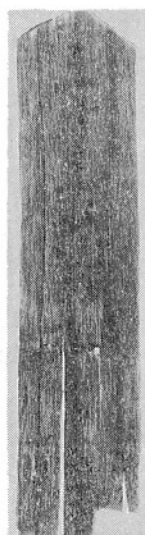
(10)



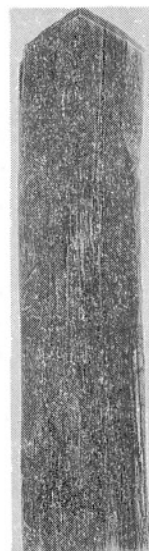
(13)



(15)



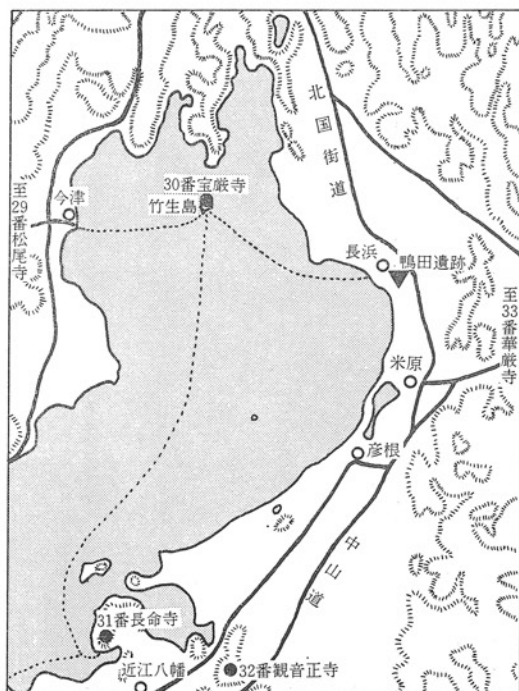
(7)



(12)

- (8) 「みのゝ国あかさかの住人
卅三所順礼聖同行三人
宝徳四年三月廿五日」
203×57×3 011*
- (9) 「大□□
卅三所巡礼只三人石□□^{〔藤カ〕}
四月九日」
215×41×3 011
- (10) 「播州三木郡吉河庄住人
三拾参所順礼俗二人
宝徳四□三月廿二日」
155×37×3 011
- (11) 「つのかにあくたかはの住人
卅三所順礼聖一人
宝徳四年三月四日」
208×43×2 011*
- (12) 「宝徳四年三月日
三十三所巡礼只一人如祐」
205×47×2 011
- (13) 「みのくに□□いの 宝徳四年
卅三所巡礼只一人
□□なかより 三月十□日^{〔未カ〕}」
178×37×3 011

- (14) 「□
西国三十三所巡礼×
た□□□
(140)×(33)×2 081
- (15) 「三十三所巡礼三人□□はのくに^{〔をカ〕}
宝徳二年 僧一人
西国卅三所巡礼遠江国□住人
三月廿一日 □二人
(155)×36×2 019
- (16) 「宝徳二年 僧一人
西国卅三所巡礼聖五人敬白
国 四月 一日」
220×45×3 011
- (17) 「美濃州米田嶋住僧
西国三十三所順礼僧只四人
宝徳□□^{〔四カ〕}「九日」
222×39×4 011*
- (18) 「□□□□うの□□□^{〔国カ〕}
卅三所しゅんれい一人
ほうとく二年三月十八日」
227×55×2 011
- (19) 「三月十□□□□□
卅三所 巡三人」
227×55×2 011



鴨田遺跡周辺の札所位置図

記載内容のうち特に注目されるのは、年紀と出身地である。年紀の確認できるものは全て宝徳四年（二四五二）であり、月日は三月初めから五月までとなっている。なぜこの期間の巡礼札のみが焼却されずに区画溝に投棄されたのか今後の課題となろう。なお、(15)の国名の部分の文字は「津」または「濃」の可能性があるが、「をばやし」は摂津国武庫郡小林（現兵庫県宝塚市）のことであろう。

（重田 勉）

木簡研究 第一三号

巻頭言

一九九〇年出土の木簡

笹山 晴生

概要 平城京跡左京三条三坊十二坪 東大寺旧境内（三社池） 藤

原宮跡 藤原京跡右京七条二坊 山田道跡 山田寺跡 長岡京跡

今里城跡 鳥羽離宮跡 壬生寺境内遺跡 里遺跡 大坂城跡 住友

銅吹所跡 山之内遺跡 勝山遺跡 新金岡更池遺跡 豊嶋郡条里遺

跡 五反島遺跡 上小名田遺跡 吉田南遺跡 明石城武家屋敷跡

今宿丁田遺跡 袴狭遺跡 伊賀国府推定地 瀬名遺跡 忍城跡 市

原条里制遺跡 鉢形地区条里遺跡 石田三宅遺跡 斗西遺跡 一乗

谷朝倉氏遺跡 浄水寺跡 上荒屋遺跡 田中遺跡 八幡林遺跡 緒

立C遺跡 的場遺跡 荒田目条里制遺構 柳之御所跡 矢野遺跡

岡山城二之丸跡 草戸千軒町遺跡 長登銅山跡 東山崎・水田遺跡

鴻臚館跡 大宰府跡 観世音寺跡 多田遺跡 上高橋高田遺跡

一九七七年以前出土の木簡（一三）

飛鳥京跡 県立明日香養護学校遺跡 大坂城跡

下曾我遺跡と出土木簡

香川県長福寺出土の木簡

「二条大路木簡」と古代の食料品賞進制度

中国簡牘学国際学術研究会参加記

彙報

頒価 四三〇〇円 千五〇〇円

鈴木 靖民
館野 和己
樋口 知志
佐藤 信